

(学校運営協議会・報告様式)

令和7年度 第5回白子中学校学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和8年1月23日(金) 16:00~17:00

2 場 所 白子中学校 図書館

### 3 報告事項

- ・3年生は受検(験)にむけて面接練習等頑張っている姿が多くみられる。
- ・1・2年生は社会見学が今後予定される。大きなトラブルなく落ち着いて生活している。

### 4 協議事項

#### (1) 学校関係者評価書について

- ・ICT活用(グループ学習等)は全国平均を上回ることができた。数学では全国平均を下回った。
- ・「安心して学べる生徒」の割合は目標の90%には達しなかったがそれに迫る数値であった。不登校支援アドバイザーの活用や校内教育支援センターへの地道な取組を継続している。
- ・非認知能力育成については、自己肯定感はなかなか上がってこないのが課題である。
- ・地域連携については、前回の講演で校区の子ども食堂の取組等の紹介があり、その内容を教職員にも共有した。

(委員より)

- ・自転車のマナーはより良くなっている。並走も少ないが、いるので特に狭いところは気をつけるよう今後も継続して指導をお願いしたい。
- ・時間ギリギリで慌てている生徒もいるので、時間に余裕をもって行動することや命を大切にすることも併せて指導をお願いしたい。  
→今後も継続して指導を行っていく。
- ・あいさつも以前よりも良くなって、元気もいい。とてもうれしい。

#### (2) 学校運営協議会の熟議内容：子どもの自己肯定感を育むために

- ・学校では子どもたちに積極的に声かけ等取組の結果、アンケートで子どもたちの認められているとの回答は増加傾向にあるが、自己肯定感が上がりず課題である。

(委員より)

- ・家庭でほめることが効果的なのではないだろうか。自分も認められているんだと思うだろう。親に認められているというのは子どもにはとても大切なことである。
- ・大事に思われている(認められている)ことが子どもたちの自己肯定感につながっていないのではないか。自己肯定感という言葉が子どもたちにとってわかりづらく、もう少しかみ砕いて伝えていくことがいいのではないか。
- ・人から認められている＝自分に価値のある人というのが繋がっていないのではないか。人の心は複雑で難しい。
- ・思春期の難しさもあるのではないか。気はついているけどそれは素直に表現できないこともある。
- ・文化祭で子どもたちの様子を見た限り、達成感もあったと思うので自己肯定感がないとは考えにくい。今日も子どもたちから元気よくあいさつしてくれてうれしかった。
- ・中学生は一番認められたいのは友だちなのではないか。小学校では友だちのいいところを書いているが、中学校ではなかなか難しいか。
- ・悩みも親には素直に言えないが、友だちに相談することのほうが多くなっている。
- ・感謝されることが肯定感につながるのであれば、子ども食堂でボランティアに来ている生徒たちは、ほめると顔を真っ赤にして喜ぶ。人としての成長も速いような気がする。周りの空気が読めるようになっている。
- ・子どもたちの日々の些細なことを認めてほめることが大切なことではないか。親にほめられるとどんな子どもでもうれしい。  
→学校でも大学の先生の講演でももっと子どもたちのできていることに目をむけることが大切であると学んだところである。

#### 5 教育支援課より

- ・学校関係者評価の取り扱いについて説明があった。
- ・子どもの自己肯定感はずぐにあげることは難しいが、学校・家庭・地域が長い目で子どもたちを育てていくことが大切である。

次回の学校運営協議会

2月27日(金) 本館2階 図書館 16:00~17:00